

第2回会議の開催結果

1 議事要旨

使途については、何を実施していくのか明確化が必要であることや、費用対効果がどのくらい現れてくるのかという透明性が重要である。

また、データに基づきながらターゲットを想定し、どのように効果を出していくのかを含め、導入の方向性、効果を明確にし、宿泊者、宿泊事業者または市民へ周知していくことが大事である。

税制度設計については、課税免除をしない代わりにインセンティブを設け比較優位を出していく必要がある。また、税率については、県の150円に市が上乗せしていくことは、市町村の現場から見れば無理がある。

安房地域で見た場合、宿泊施設客室数、宿泊人数ともに県全体の大きな割合を占めることから、安房地域の連携を深め、県へ相談、要望したほうがよい。

市の使途を明確にした上で、市と県それぞれの役割を明確にし、県へ要望を含め調整を図っていきたい。

2 各委員の意見

●宿泊事業者用アンケート結果の報告について

- ・宿泊税は宿泊事業者が納得しないといけないので、宿泊事業者121事業者のうち45事業者の回答（37.1%の回答率）だが、できれば90%ぐらいは出していただくようお願いしたい。

●使途の検討について

- ・「これはどうしてもやりたい」「県の施策では足りないので市でやらざるを得ない」という使途の目的を明確にしたほうがよい。
- ・透明性の観点から費用対効果を見出すことが重要である。
- ・宿泊者、宿泊事業者、地域住民へ周知し理解を得ることが非常に大事。
- ・この地域のデータ分析を使途に加え、データに沿って戦略的に実施していくことが有効

かつ効果的だ。

- ・アンケートをもとに情報発信をしていくことで、地域にお金を落としてくれるお客様に来ていただくことが必要。
- ・シャトルバスの運行事業がひとつのキーになるのではないかな。
- ・施設整備に大きなお金が流れてしまうことを懸念する。
- ・観光地としての魅力をさらに磨き上げるために宿泊税をとるべき。

●税制度設計（素案）について

- ・県と市の2階建ては反対。
- ・事務的負担を考えると段階的定額制より一律定額がよい。
- ・県が示す「市町村・DMOへの支援」では十分な補助金・交付金は確保できない。
- ・県で150円を徴収し100円を南房総に交付してほしい。
- ・南房総市側に還元率が多くなるよう話を進めたい。
- ・教育旅行に関してはせいぜい取れても200円程度。それ以上はきつい。
- ・県の素案に関しては納得がいかない。市単独でやらせてもらい地域に合った使い道をしたい。
- ・国際水準は定率10%なので日本は非常に少ない。1万円以上または2万円以上は上乗せでもいいと思う。
- ・南房総市の税制度設計案について異論はない。宿泊事業者の合意形成の難しさがポイントとなる。
- ・修学旅行に関してはインセンティブを設けることで課税免除なしで対応可能。
- ・価格が安い宿泊事業者でもきちんと説明をすれば問題ないのではないかな。

●広域連携

- ・安房地域で考えていくと県全体の12%もの宿泊者数があることから、安房全体で連携を深め県へ相談、お願いをしていくことが大事ではないかな。
- ・宿泊施設数、部屋数は県内で南房総市は4位、館山は10位、鴨川は7位であることを考慮し、県の検討委員の中に南房総エリアの委員を入れてほしい。

3 前回は踏まえ調査・資料作成した事項

●宿泊事業者用アンケートについて

- ・宿泊事業者用アンケートについて90%程度まで回答率を高める。

●他県の状況について

- ・北海道の状況について調べる。

●使途の明確化について

- ・使途についてなぜそれが必要なのか理由を明確にする。
- ・使途について費用対効果を明示する。
- ・お金を落としてくれるお客様に来ていただけるようターゲットを設定する。

●千葉県との調整について

- ・千葉県と県の税率又は補助金・交付金の配分等について調整する。

●税制度設計について

- ・第2回の意見を踏まえ南房総市税制度設計案についてまとめる。